

平成26年度教育研究活動報告書

氏名	寺杣雅人	所属	芸術文化学部日本文学科
学位	修士（文学）	職位	教授
専門分野	日本近現代文学、日本語韻律論		
Ⅰ 教育活動			
本年度担当科目			
学部	日本文学史Ⅴ（近代） 日本文学講読Ⅴ 日本文学講義Ⅳ 日本語表現法（前期） 日本語表現法（後期） 近現代文学専門演習Ⅲ a 近現代文学専門演習Ⅲ b 卒業論文指導（構想・準備） 卒業論文指導（制作） 文芸創作入門Ⅱ（オムニバス） 尾道学入門（オムニバス） 文化財学（授業責任者）		
大学院	日本近代文学特講 日本近代文学演習 日本語音律特論 日本文学・言語文化総論（オムニバス） 修士論文研究指導		
Ⅱ 研究活動			
これまでの主な研究業績（5件まで）			
（1）〈論文〉等時音律説試論—定型詩歌はどう読むべきか—（『文学』第46巻第2号、1978年2月）			
（2）〈著書〉五音と七音のリズム—等時音律説試論（南窓社、2001年3月）			
（3）〈学会発表〉「謙作の追憶」と「暗夜行路」序詞—志賀直哉における本文の形成—（全国大学国語国文学会、2006年12月）			
（4）〈論文〉宮沢賢治「どんぐりと山猫」考—論理的分析の試み—（『尾道大学芸術文化学部紀要』第8号、尾道大学芸術文化学部、2009年3月）			
（5）〈著書〉志賀直哉の尾道時代（尾道市立大学日本文学科、2015年3月）			
本年度を含む過去3年間の研究業績			
（1）〈論文〉「清兵衛と瓢箪」の舞台はどこか—本文からの検証—（『尾道文学談話会会報』第3号、61-66頁、2012年12月20日）（単著、既発表論文を追補改作）			
（2）〈論文〉千光寺山の一首から—再び詩形について考える—（『尾道文学談話会会報』第3号、67-83頁、2012年12月20日）（単著）			
（3）〈論文〉志賀直哉「城の崎にて」の変容—初出本文から九巻本全集所収本文まで—（『尾道市立大学日本文学論叢』第8号、71-95頁、尾道市立大学日本文学会、2012年12月31日）（平成24年度3年ゼミ生（泉理沙、宇田香織、小平田亜弥、三浦友也、武藤孔一、森藤優花、山田やよい）との共著）			
（4）〈論文〉「等時音律説」の基底—日本詩歌の理解のために—（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第12号、59-70頁、尾道市立大学芸術文化学部、2013年3月31日）（単著）			
（5）〈その他〉志賀直哉の尾道時代（『中国新聞』コラム「緑地帯」、①～⑧、2013年11月30日～12月10日、8回断続連載）			
（6）〈論文〉志賀直哉「清兵衛と瓢箪」の深層—「暗夜行路」との関わり—（『尾道文学談話会会報』第4号、1-19頁、2013年12月20日）（平成25年度3年ゼミ生（五十嵐景子、荻巣健人、瀬島紘久、中村綾子）との共著）			
（7）〈論文〉吉備の中山の一首から—三たび詩形について考える—（『尾道文学談話会会報』第4号、91-96頁、2013年12月20日）（単著）			
（8）〈論文〉林芙美子の書簡一通と注解（『尾道市立大学日本文学論叢』第9号、207-218頁、尾道市立大学日本文学会、2013年12月31日）（単著）			
（9）〈論文〉続・「等時音律説」の基底—日本詩歌の理解のために—（『尾道市立大学芸術文化学部紀要』第13号、97-104頁、尾道市立大学芸術文化学部、2014年3月31日）（単著）			

<p>(10) 〈その他〉 志賀直哉の尾道時代（一）（『尾道文化』第32号、11-21頁、2014年3月31日）（単著）</p>	
<p>(11) 〈著書〉「等時音律説」入門（B6版205頁、2014年3月31日発行、発行者＝尾道市立大学芸術文化学部日本文学科、印刷所＝三原プリント株式会社）（単著）</p>	
<p>(12) 〈その他〉「或る親子」（中国新聞夕刊コラム（「でるた」の欄）、2014年10月23日）（単著）</p>	
<p>(13) 〈論文〉志賀直哉「或る親子」の本文と注解（『尾道市立大学日本文学論叢』第10号、169-184頁、尾道市立大学日本文学会、2014年12月6日）（3年ゼミ生（安部美幸、岡田直晃、平瀬加代子）との共著）</p>	
<p>(14) 〈論文〉「暗夜行路」序詞はいかに形成されたか—「謙作の追憶」に始まる4本文の校異から—（『尾道文学談話会会報』第5号、95-116頁、2014年12月20日）（尾道市立大学近代文学研究会会員（安部 美幸、植村菜月、奥田恒維、金田真佑香、平瀬加代子、國本芙花、鈴木真穂、鶴田裕也）との共著）</p>	
<p>(15) 〈論文〉句読点からみた「城の崎にて」—志賀直哉における本文の形成—（『尾道文学談話会会報』第5号、29-42頁、2014年12月20日）（単著）</p>	
<p>(16) 〈その他〉志賀直哉の尾道時代（二）（『尾道文化』第33号、11-25頁、2015年3月31日）（単著）</p>	
<p>(17) 〈著書〉志賀直哉の尾道時代（2015年3月31日発行、B6版110頁、発行者＝尾道市立大学日本文学科、印刷所＝三原プリント株式会社）（単著）</p>	
<p>現在の研究テーマ（3つまで）</p>	
<p>(1) 志賀直哉研究</p>	
<p>(2) 日本詩歌の韻律研究</p>	
<p>(3) 宮沢賢治研究</p>	
<p>研究テーマの進捗状況</p>	<p>(2)と(3)は校務多端で手が付けられず。(1)はだいたい順調に推移している。特に本文研究および直哉と尾道の関係を明らかにすることに意を用いた。</p>